

## 令和6年度 自治基本条例推進委員会 議事録

日時	令和6年5月15日（水）午後1時30分から3時00分
会場	焼津市役所本庁舎 会議室2B
出席委員（8人）	松下委員長、奥山委員、吉田委員、中野委員、藤ヶ谷委員、北島委員、関委員、保科委員
欠席委員（2人）	神谷委員、向坂委員
事務局出席者（5人）	服部部長、吉川課長、高川主幹、西尾主任主事、奥川事務員
傍聴者	なし
次第	1 開会 2 市民環境部長挨拶 3 議題（1）自治基本条例記念事業について （2）自治基本条例まちづくり市民集会について 4 その他

発言者	発言内容
吉川課長	本日は、大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。只今から、「令和6年度第1回焼津市自治基本条例推進委員会」を開催します。私は、本日の司会を務めさせていただきます協働推進課長の吉川です。よろしくお願いいたします。開会に先立ちまして、服部市民環境部長よりご挨拶申し上げます。
服部部長	（挨拶）
吉川課長	議事に入ります前に、委員の交代がありましたので、報告させていただきます。社会福祉協議会内の役員交代により小長谷宏二様に代わりまして、今年度より神谷剛史様が新しく委員になりました。なお、本日の会議には、神谷委員、向坂委員から欠席する旨のご連絡をいただいております。大変申し訳ありませんが、部長につきましては、次の予定がありますので、これで退席させていただきます。それではこれより議事に入ります。松下委員長進行をお願いします。
松下委員長	それではまず議題の1、10周年記念事業について、事務局から説明をお願いします。
高川主幹	今年度のまちづくり市民集会について、説明いたします。 今年度の自治基本条例まちづくり市民集会は、令和7年1月18日土曜日、文化会館小ホールで予定している。前回の推進委員会で、市民集会の前段に、記念講演を実施し、第2部として市民集会を行うことで合意されたと聞いている。その後、事務局より3案を作成した。案1は、前段に記念事業として記念式典及び基調講演を実施し、その後市民集会を行う。案2は、前段に記念事業として記念式典及びシンポジウムを行う。パネラーは、条例制定に携わった方々に登壇いただくことを想定している。ディスカッションのテーマについては、市民集会の話題提供となるようなテーマで、その後の市民集会へ繋げるような仕立てに出来たらいいと思う。案3は、午前中に記念式典を実施し、お昼を挟んで午後から市民集会を実施する。お昼の間に物販ブースを見て回れるようなコーナー設置を考えている。 事前に正副委員長と打ち合わせをし、案2を基に行う方向でまとめた。記念式典として市長・議長あいさつ、次に記念講演、その後パネルディスカッションという流れで第1部、休憩をはさみ、第2部として、市民集会を実施。自治基本条例10周年記念事業として、まず1点目、この流れの案で良いか、2点目、タイムスケジュールはどうか。3点目、パネルディスカッションを行う場合、テーマの方向性をどうするか、4点目、パネルディスカッションのメンバーをどうするか。タイムスケジュールやパネルディスカッションを決める方法を、推進委員会で決めるのか、それとも実行委員会を立ち上げて決めるのか、併せて検討いただきたい。
松下委員長	まず、3月14日に正副委員長で打ち合わせした、その時の様子を関さんの方からも説明いただきたい。

関委員	委員長と話をし、1案2案3案を出した。今までのやり方は、集会の前に、テーマにあった報告、情報提供をし、それをベースにみんなでワークショップするという形。今年は10周年ということで、今までの10年とこれからの10年について語ってみたい、10周年の記念のものにしたいという話になった。それと席替えについて。色々な人の意見を聞くこともいいけど、話をある程度煮詰めてまとまった考えを班として発表するには時間が足りなくなる。席替えについてもこれからの検討課題と考える。
松下委員長	皆でこの案について議論していただきたい。市長、議長、あるいは一般の方もパネラーとして参加してもらい、これまでの10年、これからの10年に繋がるような話をするのはどうか。そうすれば市民集会や推進委員会の課題だった具体的なテーマ、具体性も見えてくる。パネリストは4～5人程度。私が進行をし、話を引き出すように実施する流れ。これからの10年は繋がりを仕組みにしたり、形にしていく10年。前段はこれまでの10年で特に感じたことを話してもらい、後段はこれからの10年、最後には参加者それぞれの思いを言ってもらう。それをベースに、市民集会で自由に話し合ってもらうイメージ。これからの10年という大きなテーマで、サブテーマは繋がるかそういうものでそれぞれのグループで話してもらうイメージ。そこから何か新しいものが出てくるのではないか。そういう議論があって、この第2案とスケジュールとした。質問やご意見があればどうぞ。
北島委員	最初のパネルディスカッションが今までで言う情報提供。そうすることによって、お話しする時間が長くなるっていうイメージでよいか。どういことを話してもらいたいなど、狙いはあるか。
松下委員長	もっと自主的に各グループでやったらどうか。グループごとでテーマを決めて広げてもらう。若者がいれば若者でもいいし、外国人がいれば外国人との繋がりというテーマでもよい。答えはバラバラになるが、そのような運営はどうか。
北島委員	ちゃんと一つの答え出してもらおうというのが今までとちょっと違う。
松下委員長	今までのやり方は教科書にあるような、途中でグループを交換するやり方。それもいいが話がまとまらない感じがする。グループ交換は賛否意見が分かれるところ。実行委員の人が入れれば、いきさつもわかってるから話をまとめていくこともできる。
奥山委員	なんとなく今の話の方向性だと、要望が多く出てきてしまいそうなイメージがある。
松下委員長	そういう懸念もあるが、今までそういうことはない。
関委員	要望するのではなく、私達ができることを考える。
松下委員長	進行の中で、行政がやること、行政以外に頑張ってもらうこと、そういう整理をすればよい。
保科委員	前回話が出なかったというチームもあったようだ。そこには実行委員が入っていなかったため、盛り上げてくれる人に各グループに入ってもらえばいいと思う。
関委員	前回の市民集会は、実行委員だけのグループを急に作った。
吉田委員	会場に直接来た人がとても多く、結局18テーブル作ったが、それだけでは足りず、実行委員に抜けてもらったため、実行委員のいないグループができた。
松下委員長	そのあたりは柔軟に対応する必要がある。
関委員	10周年の記念事業と市民集会を兼ねた実行委員にするのか。
北島委員	そうすると、推進委員でない実行委員の人は、自分は市民集会の実行委員なのに、記念事業を含めてやることになる、よく分からなくなって主体的になれない可能性が高い。
松下委員長	前段の記念事業は、実行委員の関わり方が難しいということか。
保科委員	実行委員の人がちゃんと立場を分かってもらわないと市民集会に繋がらない。
松下委員長	実行委員は、市民集会でそのグループを盛り上げたり、要望だけににならないように、多様な意見を出させる重要な役割。
保科委員	一般市民の人も記念式典、パネルディスカッションの話から聞いてもらわないと、パネルディスカッションを話題提供の代わりにするのが難しくなる。
奥山委員	皆さんに主体的に参加していただく意味では、有意義な記念式典にもらった方がよい。

松下委員長	キーワードは繋ぐとか、寄り添うとか、そういうための仕組み。それがなかったら焼津の未来はもうない、次の10年はない。それは市役所だけではできないし、議員だけではできないし、市民だけではできない、という話を前段でしたいと思う。例えばどんな苦勞で条例を作ったのか。私の話は20分ぐらいにして、ポイントだけ言う。時間はどのくらいか。
高川主幹	事務局案では12時からとしているが、開始時間は皆さんで検討いただきたい。例えば1時とか1時半から開始をして、記念式典、市民集会含めて4時間ぐらいといった想定。
松下委員長	市民集会が2時間半は長いのではないかな。メンバーチェンジしなかったら1時間半で十分。
関委員	長くても2時間くらいではないか。
松下委員長	大まかな流れとして、案の2の、記念式典、基調講演、パネルディスカッション、市民集会という流れでよいか。
推進委員	異議なし
奥山委員	記念式典と市民集会を分けて表記する必要があると思うが、そうすると市民集会から来る人もいる。パネルディスカッションが市民集会に繋がるという意味合いを持たせるために工夫が必要。市民集会の中に記念式典があるという括りにした方が、参加者の目線からすると分かりやすい。
北畠委員	開始が早いと午前中仕事の人は来れなくなる。なるべくゆっくり始めた方が参加者が増えるのではないかな。
奥山委員	一応12時半からの4時間で検討して、難しそうなら3時間にするのは問題ないと思う。
松下委員長	テーマは繋ぐとか、支え合うとか、そういうキーワードで考える。
高川主幹	そのような方向性でやるということで、実際は実行委員会で決めるのか。
松下委員長	実行委員会である程度示した方が良いのではないかな。パネルディスカッションのメンバーは市長と議長には入ってもらいたい。その他のメンバーはどうするか。
奥山委員	学生とか若い人に入ってもらいたい。若い子が意見を言った方が会が締まる。
関委員	高校生か大学生くらい。
松下委員長	大学もあるから、大学のメンバーでもよい。
奥山委員	20代、30代、40代とか年代別の方とか。
保科委員	何人を想定しているか。
関委員	最高5人くらいではないか。
松下委員長	多すぎると喋れない。パネルディスカッションでは、何を喋るかはある程度決めておく。以前から関わっている、関さんには出てほしい。あと若い人。
北畠委員	市民活動交流センターの相談員の人とか、まちづくりに詳しい人がよいか。
保科委員	まちづくりに詳しい人がいいのか、もっと新鮮な人がいいのか。
松下委員長	これからを考えるとやっぱり若者か。若い人に期待したい。
奥山委員	年配層がバトンを渡すとしたら、受ける側の人に出てもらいたい。
松下委員長	やはりそうすると、高校生、大学生。あるいは、働き盛りの方や子育て世代とか30代ぐらいの方。
奥山委員	子育て世代はよいかもしいない。
松下委員長	実行委員会ではこの辺の話をどうするのか。考え方は、高校生、大学生、子育て世代の30代、40代、それから多少年配の方、公職の方。バランスはいいと思う。大事なことは皆が前向きに議論出来ること。
北畠委員	記念式典には他の市町の人を呼ぶのか。
松下委員長	それはまだ決めてない。お祝い事だから声をかけるのではないかな。
吉川課長	その辺は行政の考えではなく皆さんのご意見を頂ければ、改めて案として考える。
北畠委員	この前牧之原市の記念式典に参加させてもらった時、他の市町の職員が呼ばれていたの、そういうイメージと思った。
関委員	牧之原市では、高校生が司会進行をやっていた。実行委員会で案を出したこともあったが、その時は無理だろうという話になった。
奥山委員	放送部の子とか興味あると思う。

松下委員長	良いアイデアだと思う。
奥山委員	今年のハードルを上げるようだが、昨年のオープニング動画が非常に良かった。
吉川課長	もちろんそのようなアイデアも実行委員会で図っていただけたら。
奥山委員	以前は誰かを呼んで話題提供の話をしてもらっていたが、かなり時間が押した。あらかじめ映像で、きっちり区切った方が時間が押すことがないということで、映像を流すことになった。
松下委員長	次の委員会はいつか。
高川主幹	10月ぐらいを予定している。
松下委員長	その前に1回出来ないのか。予算の制約があるのか。10月だと間が空きすぎてしまうのではないか。
吉川課長	推進委員会は年3回開催することが決まっている。例年だと次回は10月頃のスケジュール。決まっている訳ではないので、早めに開催することは可能だと思う。
松下委員長	年度の終わりにはやらなければいけないのか。
吉川課長	年度の終わりには年間の報告をさせていただいている。
松下委員長	今日大まかな内容は決まったけど、この議論をもう一回ぐらいやりたい。
保科委員	実行委員会に持って行ってやればよいのでは。去年は10回くらいやった。テーマも全くない状態から始まったので、テーマが決まるまでに3回ぐらいかかった。
関委員	今回は情報提供を誰にしてもらおうのかということも無いので、決めることは案外少ないのでは。
松下委員長	このメンバーが実行委員会のメンバーでもあるので、中身を詰めてもらう。例えば時間配分なんかも決めなければならない。
松下委員長	市民集会のスケジュールを決めなきゃいけない。10月で間に合えばいいが、大丈夫か。
関委員	広報やいづに載せる期限がある。大まかなことが決まっていなくて載せられない。
高川主幹	去年の第2回推進委員会は7月20日にやっている。
松下委員長	7月だとまだ早い。ある程度実行委員会で詰めてもらう必要がある。
関委員	広報に載せるリミットはいつか。
高川主幹	広報12月号に載せるとなると、10月中旬。
吉川課長	第2回の推進委員会の日程を動かすことは可能。実行委員会の進捗状況を見ながら、詰めさせていただくということでよろしいか。改めて通知はする。
関委員	6月中には実行委員会を1回やりたい。
高川主幹	実行委員会は、5月30日に会場を確保している。皆さんの都合はどうか。時間は6時半の予定。
北島委員	開催は早い方がよい。
関委員	夜なら空いている。
高川主幹	5月30日でよろしいか。
推進委員	異議なし。
関委員	実行委員会をどう決めるのか。ここにいるメンバーにはなってもらおうとして。
高川主幹	去年までの実行委員会の方をお願いするのか、それとも皆さんの方で誰か協力いただけるような人を推薦いただくのか。二つの案ぐらいで事務局としては考えているが、ご意見あればお願いします。
松下委員長	わかりました。議題の2に入っている。
保科委員	去年の実行委員の人たちの中には、引き続き来年度もやるといった声はある。去年やった人たちが引き続きやってくれるか分からないが、声掛けはした方がよい。事務局から声を掛けてもらいたいが、その前の根回しみたいなことは必要だと思う。
北島委員	あまり乗り気でないのに誘われたから渋々参加するというのは残念だと思う。やりたいという意思を持った人にやってもらいたい。去年やった人にも声を掛けるが、断りづらい誘い方だとよくないかと。

藤ヶ谷委員	山の手未来の会から参加したメンバーは、今言ったニュアンス。声が掛かれば行かなくてはいけないという気持ちになる。去年は元実行委員から、独断で誘いをかけた。こういう実行委員会を作りたいという構想を、委員長を中心に持っていないといけない。例えば高校生を入れたいとか。去年の人にはとにかく一応図らなきゃいけない。もうよいという人にも声をかけるべき。
関委員	はっきりもうやらないと宣言していた人もいる。
藤ヶ谷委員	内実辞めたいと思っていても、声が掛かるから出るという人もいる。
松下委員長	やっぱり、高校生とか、そういう人にもやってもらいたい。
藤ヶ谷委員	私もそう思う。
松下委員長	今回はこれからの10年なので、若い人に入ってもらおう。そういう構想は持ってないといけない。基本的には、昨年の方にはまたお願いできるか聞くけれど。
奥山委員	アンケート方式はどうか。引き続きお受けいただけますか、といった形で柔らかくお願いをする。できれば商工会議所青年部と大井川商工会青年部、青年会議所の代表の方には来てほしい。若者代表として中に入ってもらった方がよい。30代、40代の方なので、本番の時にその辺りの年代の方も来てくれる可能性が高くなる。
関委員	もう辞めると宣言していた人もいるが、その人は連絡しなくてもよいと思う。事務局でやっていただけるか。
奥山委員	適正人数はどれくらいか。
関委員	あまり大勢は良くないと思う。話がまとまらない。
奥山委員	当日来てもらい、お手伝いしていただく形ではいてほしいが、議論をするのに20人集まるとまとまりが難しくなる。
関委員	難しい。やはり多くても12、3人。
松下委員長	事務局の方で連絡してもらおうということではどうか。高校生とか若い人を増やすことも考えてもらいたい。
関委員	お茶とかお菓子の予算はないので、私達で頑張りましょう。
高川主幹	予算を確認したら少しあった。昨年も少しは出していたと思う。
松下委員長	次回の委員会については様子を見てまた連絡してもらおう。その間にこの議論を少し整理して詰めてもらうこととする。これで今日は終わりとしたい。事務局から何かあるか。
吉川課長	それでは次回の推進委員会の開催については、9月くらいの見込みで実行委員会の進捗状況を見ながら、日程の方を詰めさせていただきますので、その点ご承知おきいただければと思います。次回もよろしく願いいたします。
松下委員長	もし必要なら、Zoomでもよいので打ち合わせしましょう。
関委員	そうしましょう。
吉川課長	本日はお忙しい中、当委員会にご出席いただきましてありがとうございます。これで令和6年度第1回目の推進委員会を終了させていただきます。お疲れ様でした。